

体験的共同体論

その3 近藤 保義

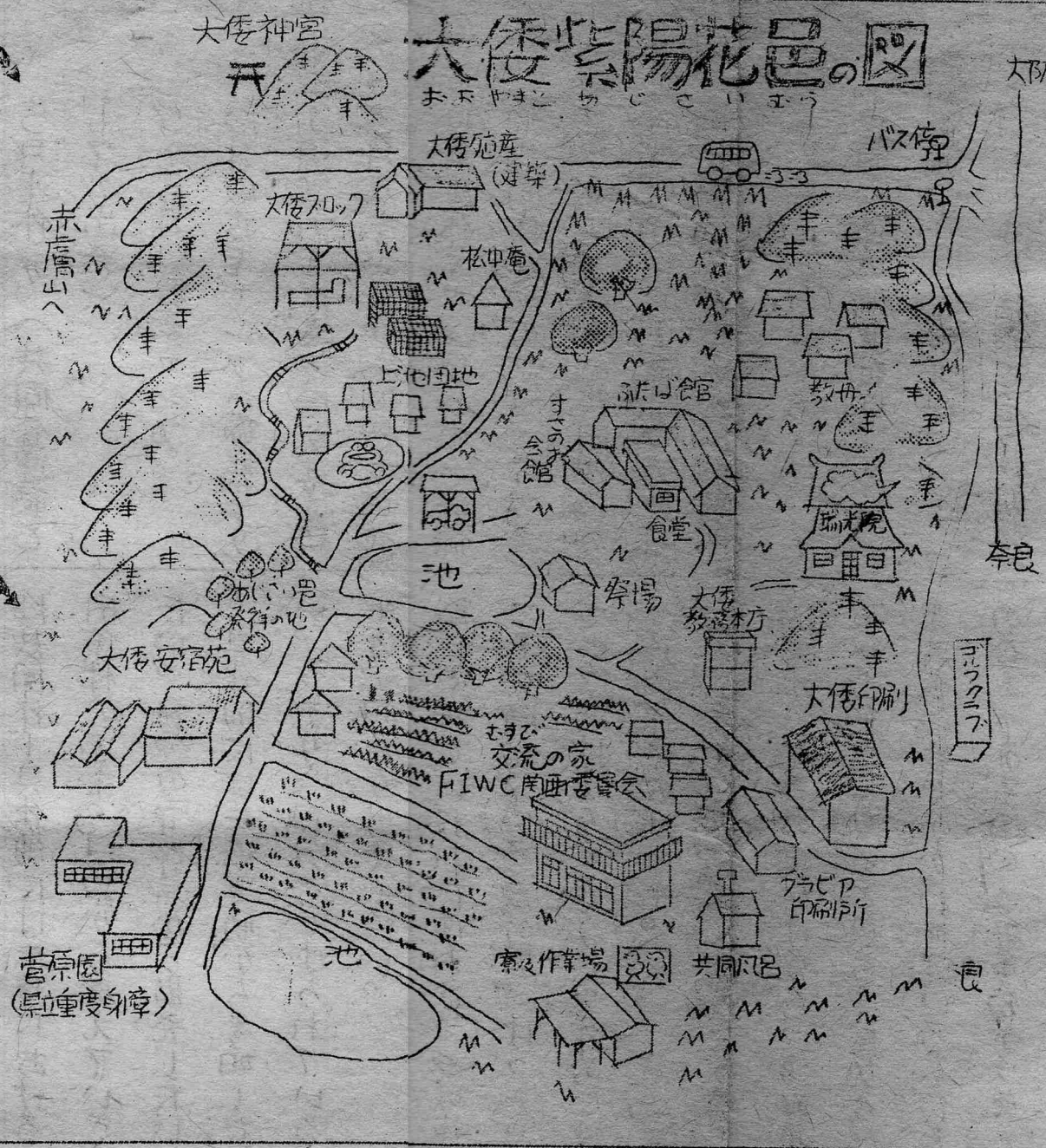
大倭紫陽花邑の巻 デイリースタイル!!

現代の生きた宗教

仕事を終えて相棒と、大阪難波から近鉄雷車で学園前まで行く。駅前で赤膚山行のバスで十分ぐらゐ。奈良国際ゴルフセンター前で下車。電車の下車間道い等したため、邑に着いたのは晩の八時頃になってしまった。前日電話をしておいたが、ここ紫陽花邑は、外部から入る者が少ない。あつちこつと邑を歩いて聞き、やつと泊まれる段取りが付き、食堂

着てる服も邑でもらったんだ。明日東京へ行きヨ東京キットフラカースを羽田まで見送りに行くんだ。いつ帰るかわからんな。とか何とか言ってる。特講の二、三日目のように頭を熱くしてくれる。この人は、我々は、おさのお会館で寝ることになった。隣室には、京都の女子大生が二人いた。

次の日、まだ雨がうつつとおしく降っていた。FIWC関西委員会の「交流の家」にぶらっと入る。ここにちは、「おはよレ飯河さんとおっし



に案内された。夕食は持参の弁当を食べる。四・五人の人達が遅い夕食をとっていた。大倭産の人達と柳沢さん。柳沢さんの話がおもしろくて彼の寮へ行き「蜚蠊通」信々こみゆらん探索者集団)や「厚木ふりだし熟」の話をしてくれた。イガクリ頭の彼は、あつちこつちの「コミュニケーション」をぶらついているよ。うだ。「金なんかいらないんだ。今

やるおはさんとペチャペチャ、ライ病患者や「家」が学生達によって建てられたことを切にお話してくださった。邑をぶらぶら歩いて、大倭産の横を通って、フロック工場を見に行く。軽度の精進者が働いていた。事務所でホシちゃん(杉本さん)にいろいろ邑のおいたちや、経済、人々の生活のあらましを話してもらった。創始者は、矢追日聖という人であり、

大倭教という「カンナガラ」の精神で結びついている大倭一門(共同生産で共同ライフ)と準一門と、まったく一般外部の人との三者で邑はなっているという感じだ。十一時頃から大倭神宮で「箭負祭」があるというので行ってみる。途中の道で、宅地造成の音がする。ここでもか!!一キロ程歩いて家並の中にこんもりとした森が現われた。神宮のアーチはジヤリヤリと音がする。人達が正装して参って来る。小雨の中で、何かお祈りがはじまった。歌も歌われた。一灯園を思い出す。古神道のように感じられた。折詰弁当をもらって我々は早々に帰ることにした。昼からは、安宿苑に行く。土まき止去人であり邑の娘さん達でここで働いていた。矢追志津女さんに案内してもらった。特別看護老人ホームと救護施設があり我々は前者でまわる。六十五才以上の老人で身体的精神的著しく欠陥がある人達!!丁寧な説明で、寮母さん達に熱いものを感じた。人間の「生」に対する強い無意識の執着心というものを感じた。私など頭がガリガリとした。となりにある「菅原園」は安宿苑が委託運営している。設備は抜群である。重度の肢体不自由者が更生に必要な治療や訓練を行なっている。そこで昨日の女子大生が手仕っていた。こは十五才以上の人達なので身近かに、自分の位置に正常さを欠いてしまっしうになつてしまった。夕方、大倭教務本庁で、青山さんと話をした。この人は若い時、大阪河内では水回っていたそうだった。創始以来ずっと秘書役的存在だそうだった。ひげもじゃで、私は大倭神宮でこの人が法主さんと呼ばれる矢追日聖さんとはじめ勘違いした。(次ページに続く)

(前ページヨリ)
 青山さんとも話がはずんで、夕食時間が遅れてしまった。いっぱい話をしたのに、何がなんであるか頭の中がまとまらず部屋に帰る。隣室の女の子が、去主さんのところに行くというので、我々もついで行く。瑞光院は少し高い丘の中腹にある。去主さんと奥さんと娘さんがいらした。ホンホンと拍手をしてお迎えしてくれた。まったく驚ろいた。去主さんはどえらく坊子のようにこわい人のように思っていたからである。百姓のおじさん的

でいたってムードがいい。まったく去主さんのペースになって聞いていた。ごく普通にしゃべってるのにおかしいと引き込まれて行く感じがした。人間は食うこを一番心配したらいいんだ。自然と共に生きてー破カイしたらいかんよ。大徳も自然にこなったもんぞ、作ろうと思ってるやうな感じじゃないんだ。人が集まってきた今があるんじやよ。いいと思う者が寄って来る。これが自然なんだ。核家族などと言ってバラバラに生活

することがつまり悲劇になるんだ。大徳では「私が皆んなの保護者となっている。皆はひとつの家族なんだな。君達も若いんだから、何でもいりやってみることだなあ。頭でっかちにならないで、理論とか目的とか言ってるだけでなく、」先の女の子は「気に入っちゃってるしよ、うう、一灯園に比らば宗教くさは感じなかった。翌朝、散歩して昼近く帰途につく。大徳紫陽花邑の住所は千六三一奈良市大徳町宗教法人大徳紫陽花邑 T E I 奈良〇七四二(四四)〇〇二

ホントでグール

(特講アンケートの回答)

規模的に日本で最大の山岸会で行なわれているヤマギシスミ特別講習研鑽会の特講生にアンケートを出してみました。一昨午暮れと、今年一月の特講生六〇名。回収率は三〇%でした。

腹を立てさせるようになった。生産的な仕事は活動を全然しなくなった。物事にとらわれなくなった。少しのんびりしてきた。日和ってきた。人あたりがよくなった。バカ・気遣い変人」と言われショックだ。お前の言ってることは理解に苦しむと言われる。女の子に感受性ゼロと言われ失恋した。現在無我夢中で自分というものを考え直している。

※最後の酒盛りはもっと酒を次山出してほしかった。山岸みたいに腹の立たない人間になれということがそもそも腹が立つ。特講の終わり頃はみんな疲れていたようだ。身体的疲労によって精神状態が変る。二だわるなとか、無所有だとか、零位に立てとかいうことに、そもそも二だわり、とらわれている。完全なる自由とか、完全なる幸福とか、人の手によってなり得ると思うのは、ゴウ慢さとかしか思えない。まわりと隔離して進行するやり方は、人間の心理を利用したニクイやり方である。理論的には解るが、可能かどうかは歴史が証明するでしょう。参加者の生の姿がどんどん出て来るのを感じた。

- (一) ヤマギシ会を共同体と思いませんか。
 - (1) ハイ ↓ 過半数 一体で
 - (2) イイエ ↓ 数名 全ギシ会の人々
 - (3) わからない ↓ 数名
- ※一体なのか、共同体なのかわからない。共同体とは何かわからない。
- (二) 特講後、生活態度や考え方が変わりましたか。
 - (1) ハイ ↓ 半数強
- ※あらゆる角度から自分を批判するようになった。心の中がすっきりし、勉強に打込めるようになった。まわりの人は明るくなった。人が変わった。バカになった。と言う。無償乗車が楽しくなった。バナナやミカンの皮を平気で食べるようになった。人に頼まれたことをしなくなった。人に

- (3) ヤマギシ会を宗教団体と思うか。
 - (1) ハイ ↓ 一名
- ※幸福社会が実現できるという一つの絶体的なものを、神の代わりとした宗教の一つではないのか。
- (4) イイエ ↓ 過半数
- ※自分に規律を設けていないから、何も信じるものがないから。

まっこんなところまで

